

関係機関訪問第 2 弾

帯広近郊就労系障がい福祉サービス
事業所への聞き取り調査をスタートしました！



令和 2 年 9 月 15 日 (火)
就労継続支援 B 型「ワークサロン虹」
キッチンハウスあしたば
就労継続支援 B 型「まるしえ・ぶどう」
クッキーハウスぶどうの木
特定非営利活動法人
ワークセンターはまなす

令和 2 年 9 月 16 日 (水)
就労継続支援 B 型「ワークサロン虹」
朋友舎

就労継続支援事業所 ワークサロン虹 キッチンハウスあしたば(B 型・地活)

開設されてから今年で 20 年が経過したとこのことで、これまでの歴史も振り返りながらお話を伺ってまいりました。開設当初は選択できる資源が地域に数カ所と限定されていましたが、現在ではその数が倍以上に増え、選択肢が広がっていることに良さを感じる一方、あしたば自体を新規で利用される方が減少している現状もあることから、運営の難しさも同時に感じられている様でした。ですが、障がいをお持ちの方が地域社会の中で自立をしながら生活していくことや、ご本人の力や思いに丁寧に向き合い支援に携わるといった根本の部分は、今も変わらず対象者との関わりの中で大切にされている事業所としての思いについてもお聞きすることが出来ました。また、当時から精神障がいをお持ちの方の利用が多くを占めている状況とのことでしたが、今後も個別のニーズや状況に合わせて、その他に必要な支援を模索していきたいとお話を伺いました。



支援員の廣澤さんにお話を伺いました

就労継続支援事業所 まるしえ・ぶどう クッキーハウスぶどうの木(B 型)

クッキー作りを中心とした活動を行うクッキーハウスぶどうの木ですが、コロナウイルスの影響により、製品の販売先の減少やそれに伴って作業量が減少し、ご苦労された経過があった様です。しかしその中でも最近では、新たな作業を加えるなど、試行錯誤されながらも日中活動の場を提供することを大切に、運営を行われているとのことでした。

また、利用されている方は 20~40 代と比較的若手の方が多ようです。昨年は一般就労をされた方や、A 型事業所へステップアップを目指す方も数名いらっしゃる一方、こちらでの活動継続を目標に通われている方が多い現状もあることとお伺いしました。その中で、様々に変化している個別の状況に対して幅広い関わりを持つための、支援体制を整えられるよう、職員の育成等も更に目を向けられたら良いとお話がありました。



支援員の山口さんにお話を伺いました

特定非営利活動法人 ワークセンターはまなす(B 型)

手をつなぐ育成会を運営主体とし、主に知的障がいをお持ちの方が利用されているワークセンターはまなすへお伺いしました。開設当初からの歴史を振り返り、当時は就労支援をメインに関わる対象者が多かった中で、最近では生活支援・障がい特性や状況に合わせた個別の関わりが特に必要となっている方が増えているとお話がありました。また、個別の方に深く関わりを持ちたい反面、制度上それが出来づらい状況になってきているとお話もあり、地域事情や関わる対象者層の変化、これまでの経過等からの思いについてのお話を聞かせていただきました。

事業所では、定期的に行われていたイベントの制限や、大人数で集まる機会の自粛等、コロナウイルス感染予防対策に取り組まねながらも、日々楽しみややりがいを見出しながら、活動されているとのことでした。



所長の畑中さんにお話を伺いました

就労継続支援事業所 ワークサロン虹 朋友舎(B型・地活)

就労継続支援 B 型事業所と地域活動支援センターの機能を持ち、全体的に主に憩いの場として利用される方が多く、就労継続支援 B 型事業としては、B 型への一歩手前の段階で利用していくような場所として活動されているとお話がありました。その経緯もあり、就労継続支援 B 型へ登録されている方に関しては、ここでの活動に留まるのではなく、他の継続支援 B 型・A 型事業所への変更やステップアップをされていく方もいて、そのための見学対応なども含めてスタッフがサポートをする機会も多いとのことでした。他事業所同様、利用者の人数が減少している背景はありつつも、その方の可能性を事業所内で留めてしまわぬよう、他事業所への見学ツアーなどを開催して刺激を促したりと、他の事業所やその先に進んでいくご本人の力に合わせた対象者へ工夫や関わりをされているようでした。



支援員の浦島さんにお話を伺いました